

令和3年度第三者評価における校長所見

評価結果を受け、補足説明や改善策等、今後の方向性について記入してください。

このたびは、本校の学校経営について客観的な評価をいただく機会を与えていただき、大変感謝している。また、評価の結果についても、実情以上の高評価をいただいたのではないかと、恐縮しているところである。

町の子供たちが通う、地域の大切な学校の経営を任されるという重責の下、保護者や地域の声に耳を傾けると同時に、教育の理想を発信し続けてきた4年間であった。子供たちを、一人の人間として大切にすること。そして、子供たちの可能性を引き出す様々な取組を、教職員が一丸となって進めてきた結果として、現在の姿である。

評価をしていただいた当日にもお話ししたことだが、学校は次から次へとうまれる新たな課題に立ち向かっているところである。学力向上の取組については、教職員の指導力向上とあわせて、まだまだ不十分な点が多く、見方を変えれば、伸び代は大きく残されていると言える。また、個々の児童のニーズへの対応については、取組も始まったばかりで、克服すべき課題は多々残されている。さらに、教職員の働き方についても、改善しなければならない点は多いので、ICT機器の活用を推進しながらもヒューマンな職場環境を作っていかなければならない。

今、大切にしたいのは、子供たち自身の声である。保護者や学校の価値や考えを単に押しつけるだけでなく、子供たち自身が自ら学び、考え、行動する人となることをバックアップしなければならない。そのため、学校はこれまで以上に、子供たちに意見を求め、考えさせる姿勢を前面に打ち出していかなければならないと考えている。

今回の評価を励みに、これからも、「自立」「共生」「健康」の教育目標の達成を目指し、教職員一同、知恵と力を合わせて、子供たちのためによりよい教育を目指して努力を続ける所存である。

墨田区立第三吾嬬小学校 校長 川中子 登志雄